

極
秘

1175

一九三三年四月二十日

中立國オブザーバーノ見タル日本軍上海侵略ノ狀況

國際聯盟規約第十五條第一項ニヨリ
設置サレタル上海調査委員會報告書

南京外交部 情報局 發行

朝鮮總督官房 外編課 譯

朝鮮總督府

472

0473

1175

朝鮮總督府

472

0472

REEL No. A-0114

0536

アジア歴史資料センター

本委員會ハ米國總領事キー、カンニングハム氏ノ参加ノ下ニ會合シ國際聯盟ニ對シ二月十六日及三月四日附ヲ以テ前後二回ニ亘リ上海事件ニ關スル四報告書ヲ提出シタソレカ即チ本報告書デアアル

本報告書ハ中立國オブサーバーカ事實ヲ調査シ記述シタモノデアツテ支那ニ於ケル日本侵略ニ付テ知ラントスルモノニハ絶好ノ資料デアアル

外交部 情報局 長

474 0475

朝鮮總督府

緒 言

一九三二年一月二十八日日本武裝隊カ上海攻撃ヲ開始シテ後間モナク二月ノ上旬頃國際聯盟事務總長ハ國際聯盟規約第十五條第一項ニ基キ上海及其ノ附近ニ起キタ敵對行動調査ノ爲現場委員會ヲ設置シ左ノ委員ヲ任命シタ

議長	伊太利代理公使	ジ、シアノ、テ、コルテラソ伯
英國總領事		ジョン、エフ、ブレナン卿
佛國總領事		エム、イ、コークリン
獨逸總領事		ルト、フォン、コレンバーク
スペイン國總領事		イ、ビー、フアレール
ノールウエー國總領事		エヌ、アール

以上

473 0474

朝鮮總督府

1175

朝鮮總督府

日本軍上海縣ニ向ケ進軍シ來ル
上海縣爆撃
停戦協定

第一報告附録
（一）一九三二年二月十二日附國際聯盟事務總長ヨリハース氏宛ノ電文
（二）委員會ノ回答（特別報告）

第二報告
日本飛行機關北爆撃ニヨリ戦端再ヒ開始サル
日本人居留地内ニ起リシ事件
租界内工部局ノ行動ハ凡テ日本海軍ノ防衛ニヨリ無力ノ状態トナル

476

0477

1175

朝鮮總督府

目次

第一報告
上海ニ於ケル日本ノ軍事的侵略ノ原因
朝鮮事件、滿洲占據、ボイコット、支那學生ノ態度
三友タオル工場前ニ於ケル日支人衝突
日本人ノ放火事件
日本軍軍事行動開始
上海市長ニ提出サレタル日本總領事ノ五箇條ノ要求
日本海軍司令官ノ攻撃ニ出スヘントノ強迫文句
市長ノ讓歩
總要求ヲ無條件承認ストノ市長通告

475

0476

1175

日本軍上海及吳淞方面ヲ占領ス
 日本軍引續キ租界内工部局ノ行動ヲ阻止ス

朝鮮總督府

478

0479

1175

租界ハ日本人横暴ノ巷ト化ス
 第三報告
 雙方撤退案ヲ基礎トシテ討議ヲ始ム
 日本側ノ條件ト市長ノ回答
 日本軍支那軍ヲ攻撃ス
 第三報告附録
 第四報告
 日本飛行機虹橋及杭州飛行場ヲ爆撃破壊ス
 日本陸軍第十一師團到着
 上海南京線ノ一部日本飛行機ニヨリ爆破サル
 關北地方ニ火災起ル
 上海地方ヨリ支那軍ノ撤退

朝鮮總督府

477

0478

第一報告 上海一九三二年二月六日

國際聯盟事務總長ノ任命シタ上海調査委員ハ左ノ第一報告書ヲ提出シ
 タカ爾後ハ逐次事件ノ起ル度毎ニ報告スル。
 同委員會ニハ米國總領事カニングハム氏モ参加シタ。
 委員會ハ上海及其ノ附近ニ發生シタ事件ノ進展ニ付テ其ノ原因及事實
 等ニ關シ報告スル様委託セラレタノデアル
 朝鮮事件(註、朝鮮ニ於ケル鮮支人衝突事件)ニ其因ヲ發シテ去ル七
 月以來日貨ボイコツトカ繼續的ニ行ハレタカ事態ハ更ニ日本軍ノ滿洲
 占領ヲ増兵等ニヨツテ益々猛烈トナリ排日氣分ハ盛ニ煽ラレ爲ニ日本
 カ貿易上被ツタ損害ハ實ニ莫大ナモノデアル、支那人商業團體ヲ以テ
 組織サレテ居ル排日ボイコツト團ハ日本商店ノ監視ヲ行ヒ日本品ノ掠

朝鮮總督府

朝鮮總督府

奪ヤ日本品取扱支那人ノ摘發及監禁等ヲ敢テ爲シタノデアルカ之等
 不法行爲者ニ對シテハ何等法律上ノ矯正ヲ期待スルコトカ出來ナイ狀
 態ニアツタ之カ爲日本人ノ支那人ニ對スル感情ハ増々惡化シテ來タノ
 テアルカ一方支那學生ハ盛ニデモンストレーションヲ行ヒ政府ニ對
 シ對日宣戰布告ノ要求ヲナス等支那人ノ感情モ漸次惡化シ強烈トナル
 ノミテ各所ニ日支人間ノ小衝突カ行ハレルニ至ツタノデアル
 然シテ一度支那新聞ニ櫻田門事件ニ關スル不敬記事カ掲載サルルヤ之
 ニ對スル日本居留民ノ憤慨一方ナラス早速政府當局ニ對シ直接行動ニ
 依ツテ此ノ忍フヘカラサル屈辱狀態ヲ一掃セラレン事ヲ要求スルニ至
 ツタ
 一月十八日僧侶一行五名三友タオル工場前ヲ通過セントスルヤ最近組
 織サレタ抗日義勇軍ト覺シキ支那人ニ襲撃セラレ報告ニ接シテ警官カ

到來シタ時ハ既ニ過ク暴行者ハ全部逃走シタ後テ遂ニ捕縛ニ至ラナカ
 ツタ此ノ暴行ニヨリ日本人二名ハ重傷ヲ負ヒ其内一名ハ死亡シタ
 一月二十日約五十名ノ日本人青年同志會員ハ棍棒或ハ刀ヲ手ニシテ三
 友タオル會社ニ至リ機打暴行シ其ノ歸途共同租界ノ巡查ト衝突シ支那
 人巡查三名負傷内一名死亡シ日本側ニモ三名ノ負傷者一名ノ死者ヲ出
 シタ尙當日ハ日本人居留民大會ヲ開キ僧侶事件及不敬事件ニ付キ強硬
 ナル決議ヲナシ決議文ヲ日本要路ニ提出シ此際排日運動ヲ徹底的ニ鎮
 壓スル方策ノ下ニ軍艦及陸兵ノ派遣ヲ乞フ旨陳情スル所カアツタ
 右陳情員ノ半数ハ司令官、總領事、陸戰隊指揮官等ノ各本部ヲ歴訪シ
 タカ總領事ト面會シテノ歸途共同租界ノ警察官ト衝突シタ之ノ事件テ
 一英國人巡查部長カ負傷シタノテ日本官憲ハ直チニ遺憾ノ意ヲ表シ其
 後七名ノ日本人ヲ逮捕シテ之ヲ日本ノ法律ニヨリ裁判スル爲ニ長崎ニ

朝鮮總督府

481

0482

送還シタ
 二十日日本總領事ハ市長秘書長ニ左ノ要求ヲ手交シタ
 一 市長ノ陳謝
 二 加害者ノ逮捕
 三 被害者ニ對スル慰養料治療費ノ負擔
 四 抗日運動ニ對スル完全ナル抑壓
 五 抗日會等反日團體ノ即日解散
 一月二十一日朝上海市長ハ第一、第二、第三項迄ハ應諾シ得ルモ第四
 第五ノ兩項ハ受諾困難テアル旨ヲ回答シテ來タ
 同日午後日本遣外司令官ハ次ノ如キ聲明書ヲ發シテ其ノ寫ヲ上海保安
 局及工部局ニ送附シタ即チ
 「本職ハ上海市長カ帝國總領事ノ提出セル抗日會員日本僧侶暴行事件

朝鮮總督府

482

0483

ニ付テノ要求ヲ容レ速ニ満足ナル回答ヲナシ且其ノ履行ニ忠實ナラン
 コトヲ要望ス萬一之ニ反スル場合ニ於テハ帝國ノ利益擁護ノ爲適當ト
 信スル手段ニ出スル決心ナリト

一月二十四日日本海軍増援隊上海到着

當時流言蜚語盛ニ行ハレ關北地方ニハ支那軍糧々到着シツツアリト傳
 ヘラレタ

日本總領事ハ上海市長ニ對シ「若シ適當ナル時機迄ニ満足ナル回答ヲ
 受ケヤル場合又ハ回答カ日本側ニ於テ満足シ得サルモノナル場合ニ於
 テハ必要ニ應シ適當ナル處置ニ出スヘントノ通牒ヲ發シ徹底的行動ニ
 出スル權利ヲ保留シタ

一方上海市長ハ中立國官民ニ對シテハ極力日支人衝突ヲ防止シツツア
 ルコトヲ述ヘ又事實ボイコット團ノ排日行動防止ニ努力シ來タツタノ

483 0484

テアル又其ノ團體ノ名稱中ニアル「排日」ナル文字ノ削除ヲ強要シ遂
 ニ一月二十七日及二十八日ニ至リボイコット本部モ閉鎖サルルニ至ツ
 タノテアル

一月二十五日日本總領事ハ上海市長ニ對シ一月二十八日迄ニ回答ヲナ
 ス様要求シタ

一月二十七日日本總領事ハ上海市長ニ對シ二十八日午後六時迄ニ満足
 ナル回答ヲナス様要求シ若シ之ニ應ヤサル場合ハ前述ノ各條項決行上
 必要ナル手段ニ出ツヘント傳ウル所カアツタ

一月二十八日午前七時三十分日本海軍遣外司令官ハ上海停泊各國軍艦
 ノ司令官ニ對シ若シ支那カ満足ナル回答ヲナササル場合ハ明朝ヨリ軍
 舉行動ニ出ツヘント通報シタ

茲ニ於テ上海共同租界代表者會議開カレ午後四時ヨリ戒嚴令カ布カレ

484 0485

朝鮮總督府

ル事トナリ各國司令官ハ各々其ノ受持受持ノ部署ニ就キ警備ニ當ル様
 通達サレタ
 同日早朝上海市長ハ總領事ヲ訪問シ日本ノ要求全部ヲ無條件ニ承認
 スルコトヲ申出テ來タ
 午後四時日本總領事ハ上海領事團ニ對シ右回答ヲ受領セシコト及其回
 答カ満足ナリシ旨ヲ傳ヘタカ更ニ總領事ハ果シテ上海市長カ右ノ約束
 ヲ履行シ得ルヤ否ヤカ疑問テアルケレトモ然シ目下ノ所要求ノ大部分
 カ承認サレテ居ルカラ當分軍舉行動ニ移ル必要ハアルマイト述ヘタ
 以上ノ如ク外交的關係ニ於テハ好轉シタト云ヘルカ日本海軍ハ何時ニ
 テモ軍舉行動ニ出ツル用意ト決心カアルト一般カラ見ラレテ居タノテ
 アル
 日本字新聞ニハ支那側ニハ誠意ナク目下彼等ハ日本人襲撃ノ準備中テ

485 0486

朝鮮總督府

アル等ト盛ニ煽動的此舉ヲ擧げシテ居タ
 更ニ工部當局トシテハ日本ノ要求ニ對スル此ノ市長ノ無條件的承認ヲ
 支那ハ到底承認セサルヘク從ツテ事態ハ決シテ樂觀ヲ許サナイ状態ニ
 アルノヲ視テトリ午後四時ヨリ慈々戒嚴令ヲ布クコトニ決シタノデア
 ル
 茲ニ注意スヘキコトハ共同租界防備委員會ナルモノノ權限テアツテ之
 ハ守備隊指揮官、工部局廳長、上海自衛團指揮官等ニヨリ組織サレテ
 居テ其ノ會長ハ最先任者ヲ以テ充テラレテ居ルノテアルカ其ノ會長モ
 各國軍隊ノ個々ニ渡ル任細ノ軍舉行動ニ付イテハ何等命令ヲ下シ得ル
 權限ヲ有セヌ彼ハ只各國兵ノ配備區域ヲ定メタリ又其ノ各指揮官間ノ
 聯絡ヲトツタリ防備上ノ主タル方針ヲ定メル位ノモノデア
 戒嚴令カ布カレテ後直チニ英、米守備隊ハ夫々其適當區域ノ配備ニ就

486 0487

イタノテアルカ伊太利軍隊ハ二十九日其ノ受持區域ニ就イタ
 日本ノ受持區域ハ上海ノ北東部全體テアツテ實ニ廣キ區域テアル上海
 防禦委員會ノ立場ヨリ之ヲ見レハ其ノ區域カ租界外ノ地域ニ渡ツテ居
 リ西ハ北江西路及吳淞鐵道ニ至リ北ハ虹口公園ニ面シ東ハ虹口公園ノ
 東北部及哈爾濱路警察署ニ界シテ居ル地域ヲ相當廣過キル感カアル
 然シ虹口地方ニハ多數ノ日本人カ住居シテ居テ同公園ノ北四川路及狄
 思威路ハ例令租界外ト雖其ノ附邊一帶ハ上海工部局ノ所有地トナツテ
 居ルノテアツテ常ニ工部局ノ警官カ巡察シテ居ルノテアル
 支那當局トシテハ午後十一時ノ事件勃發迄ハ日本人擔當區域外ノ狀態
 ニ就テ何等情報ヲ得テ居ナカツタ様テアル日本側モ亦日本擔當地以外
 ノ地域ヲ占領スルカ如キ意志ハ毛頭ナカツタノテアルカ日本海軍ハ以
 上ノ諸街路附近ニ於ケル自國民保護ノ爲陸軍隊ヲ以テ警備ニ當ラシメ

テ居タノハ事實テアル而シテ陸軍隊本部ハ既ニ關北地方ノ突出地帯ニ置
 カレテ居タノテアツタ
 午後十一時日本艦隊司令長官ハ二四ニ亘ル聲明ヲ發シ其寫ヲ市長ニ手交
 シタ市長ハ之ヲ午後十一時二十五分入手シタト云ツテ居ル其ノ聲明ノ一
 ツハ戒嚴令ニ關スルコトテ「日本帝國海軍ハ多數邦人ノ居住スル關北一
 帶ノ治安維持ニ關シ不安ヲ感スルヲ以テ兵力ヲ配備シ之カ治安ニ任セン
 トス本職ハ關北方面ニ配備セル支那軍隊ノ敵對施設ヲ速カニ撤退センコ
 トヲ支那側ニ要望ス」ト
 他ノ一ツハ日本ノ適當ナル區域内ニ於ケル治安ヲ維持スルニ當リ若シ萬
 一戒嚴令カ施行セラレタル場合ニハ必要ニ應ジ如何ナル行動ニ出ルヤモ
 計リ難シト云フ意味テアツタ
 日本陸軍隊及武装市民ハ陸軍隊本部ニ集合シ上四川路ヨリランジ路ヲ西

ニ沿ヒ前進シ各通路ニハ夫々多少ノ兵ヲ殘シ北河兩路迄進軍シテ來タ
 ノテアツタカ夜半ニ至リ合圍ヲ以テ鐵道線路ノ方向ニ前進シ最後ノ百
 名ヨリ成ル陸戰隊ハ裝甲自動車ヲ伴ヒ河南路ノ終端ニアル支那街ト共
 同租界トヲ境スル門ヲ通過セントシタ其ノ時上海義勇軍ニ阻止サレタ
 ノテアツタ
 支那軍當局ハ日本海軍司令官ノ撤去要求ニ應シナカツタ又例ヘ懸シタ
 トシテモ斯ル短時日内ニ支那軍隊ノ撤去カ行ハレ得ルモノテハナクテ
 事實不可能ノ要求デアツタ
 支那當局ハ前日ノ緊張シタ日本海軍當局ノ態度ヲ以テ日本カ更ニ大兵
 力行動ニ移ル前提デアルト考ヘタノモ當然デアルスクシテ日本陸戰隊
 ハ支那正規軍ノ抵抗ニ會ツタノデアル日本兵ハ黃興路ノ南迄前進シ來
 タカ其南ニハ進入スルコトカ出來ナカツタ 日本軍ハ北停車場ヨリ出

動シ吳淞線ノ警備ニ就イテ居タ裝甲列車ニ擊退サレタ爲二十九日日本
 飛行機ハ北停車場ヲ爆撃シ飛行機ヲ滿載シテ居タ貨車ヲ破壊シタ又日
 本軍ニ抵抗シタ支那軍ノ根據地タル寶山路ノ諸建築物ニ對シ爆彈投下
 ヲ行ツタ爲火災ヲ生シタカ死傷者ノ數ハ判明シナカツタ然相當多數ニ
 上ルモノト見ラレテ居ル
 上海市長ハ領事團ニ對シ今回ノ日本軍ノ軍事行動ニ付抗議ヲナス所カ
 アツタカ日本側ハ今回ノ事件ハ支那ニ對シ日本ノ爲シタ要求ヲ支那側
 カ全部無條件テ承諾シタ前述ノ事件トハ全然關係ナキモノテ今回ノ行
 動ハ該地域ニ居住スル日本居留民保護上ノ自衛手段デアルト同時ニ又
 共同租界防禦計畫ニ示サレタル「必要ナル場合ハ正當防衛ニ出ツ」ト
 云フ條項ニ基ク自衛行動デアルト主張シタ
 二十九日中交戦ハ相止マナカツタ二十九日午後英米總領事ハ上海市長

英 國 セド、エフ、ブレナン
 スペイン國 フアーラー
 獨 國 コーレンベルグ
 諸威國 エン、アール

朝鮮總督府

492 0493

ノ懇請ニヨリ軍舉行動停止調停ニ成功シタ其ノ停戦ハ午后八時ヲ期シテ實行セラレタカ之ハ單ニ現狀ノ維持ノママ砲火ヲ交エスト云フ協定ニ過キナカツタノテアル

一月三十一日停戦會議開催サレ出席者ハ日本總領事、日本遣外艦隊司令長官、上海市長、支那軍司令官、英米兩國總領事等テアリ此ノ會議テ日本總領事ハ本國政府ニ對シ日本軍隊ハ突出地帯（關北）ヨリ撤去シテハ如何トノ本會議議ニ關シ訓令ヲ仰ク事トナリ若シ右ニ對シ日本政府ノ吉報到着セサル場合ハ支那側ハ自國政府ニ對シ問題ノ解決方ヲ照會スルコトニ同意シ且兩軍共最後ノ回答ヲ得ル迄ハ雙方共他方ヨリ射撃ヲ受クルニ非サレハ發砲セスト約シタノテアル

議 長 伊太利 シアノ（各自署）
 佛 國 コークリン

朝鮮總督府

491 0492

第一報告附録

二月十二日ハーリス氏ニ宛テラレタル國際聯盟事務總長ヨリノ電文
支那代表ハ上海調査委員ヨリノ第一報告中左ノ二點ニ付補足説明ヲ
要求シタ即チ

一日本遣外艦隊司令長官カ一月二十八日附テ以テ各國指揮官ニ對
シ翌日ヨリ支那軍ニ對シ軍事行動ヲ開始スヘシトノ通報ヲ發シ
タルニ何故受持區域防禦ヲ意味スル戒嚴令ヲ施キシヤ租界ヲ防
禦スヘキ此ノ戒嚴令ハ日本軍ニ對シナサレタルモノナルヤ又ハ
支那軍ニ對シテナサレタルモノナリヤ

一何故義勇軍ハ河南路門通過中日本陸戰隊百名ノ前進ヲ妨ケンヤ
義勇軍ハ共同租界官憲ノ命令ノ下ニ行動シタルモノナリヤ若シ

朝鮮總督府

然ラハ回命令ハ租界ハ中立地帯ナリトノ意味ヲ以テ爲サレタルモ
ノナリヤ

特別報告 上海一九三二年二月十三日

二月十二日附照會電報ニ對シ上海委員ハ左ノ如ク回答ス

第一質問ニ對シ

戒嚴令ハ防備計畫ヲ決行セシムル命令ニシテ其ノ目的ハ次ノ如シ

一外國租界區域内ニ於ケル紛亂ヲ防止スルコト

一租界ニ對スル外部ヨリノ侵略ヲ防禦スルコト

戒嚴令布告ニ當リ工部局ノ有セシ考ハ

イ、支那側ハ恐ラク日本ノ要求ヲ容ルルコトナカルヘク其際租界

ニハ日本ノ軍事行動ニヨリ興奮シ亂入スル避難民多數ニ上ル

朝鮮總督府

朝鮮總督府

ヘク又同時ニ算テ亂シテ逃入スル兵多カルヘシ
 ロ、支那カ日本ノ要求ヲ容レタランニハ之ニ對スル支那民衆ノ激
 昂甚シカルヘク從ツテ租界内外ノ秩序ハ忽チニシテ混亂狀態
 ニ陥ルヘシ而カモ此點ハ上海市長目ヲ憂慮セシ點ナリ
 故ニ騷亂起ルヘシトハ想像サレシモ何レノ方向ヨリ來ルモノ
 ナルヤ豫想出來ヌ戒嚴令布告ハ特定ノ國ニ對シテモ爲サレタ
 ルモノニ非ス

第二ノ質問ニ對シ

河南路門ハ租界ヨリ支那町ニ通スル門ニシテ日本ノ占領計畫中ニモ
 含マレ居ラサリキ
 防衛團ノ職務ハ防禦ニシテ攻撃ニアラス此ノ主權ノ下ニ上海義勇軍
 司令官ノ監督セル地域ニ於テ嚴然タル命令ノ下ニ於テナサレ此ノ際

朝鮮總督府

如何ナル場合ト雖此ノ門ヨリノ出入ヲ禁止シタルナリ

藏長 シノア 署名

第二報告 上海一九三二年二月十二日

一月二十九日午後八時即チ停戰協定成立シ他彈ノ音ハ止ンタカ翌日
 本海軍司令官ハ英米總領事ニ對シ支那側カ停戰ノ約ニ反シ北停車場附
 近ニ於テ裝甲列車ヲ以テ日本軍ニ鉅艦ヲ加ヘタリトノ抗議ヲ提出シタ
 ノニ對シ支那側ハ極力之ヲ否定スルノミカ之ハ日本カ發炮シタノダト
 主張シタ

一月三十一日朝日本飛行機十七台カ上海及支那陣地ノ上空ヲ飛翔シタ
 カ爆彈投下ヲ行ハヌ飛去ツタ之ハ日本側ノ説明ニヨレハ支那側カ停戰

496

0497

495

0496

協定無視シタルニヨリ行ツタモノデアルト主張シタカ之ニ對シ支那側ハ極力之ヲ否定シタ此ノ日ニ第一報告書ニ記述シタル如ク中立地帯設置ノ會合カ開カレテ其ノ會合ヲ兩國軍トモ最後ノ回答アル迄發砲セサルコトヲ約シタノデアツタ

二月一日ハ停戰狀態ニアツタカ折々銃砲ノ音カ聞エル程度ノ戰鬪カ行ハレテ居タ

二月二日日本軍司令官ハ再ヒ支那側カ前日停戰協定ヲ無視シタ事ヲ指摘シ又支那ハ日本軍包圍ノ爲盛ニ増兵シツツアリ從ツテ日本軍ハ飛行機ヲ以テ偵察セシムヘント通告シタ正午頃ニ至リ日本飛行機ハ再ヒ上海及支那陣地上空ヲ飛翔シ支那軍ノ砲撃ニ會ツタノテ飛行機ハ關北地方ニ爆彈投下ヲ行ツタ爾來雙方ヨリ盛ンニ砲火ヲ交シエルニ至ツタノデアル

午後三時日本總領事ハ領事團ニ對シ前ニ述ハタル中立地帯設置案ヲ拒否スル旨通告シタ

同日上海市長ハ上海領事團ニ對シ一月三十一日ノ停戰協定ニ關シ言及シ日本軍ハ繼續的ニ此ノ協定ヲ無視シタルノミカ飛行機ヨリ爆彈ヲ投下シツツアリトノ公文ヲ寄セテ來タ

二月三日日本海軍司令官ハ支那側カ停戰協定ニ對スル誠意ヲ披瀝セサル限リ支那軍ハ關北地方ヨリ充分ナル距離迄撤去スル必要アリト通告シタ

同日日本總領事ハ領事團ニ對シ日本艦隊カ砲台ヨリ砲撃サレタニヨツテ砲台ヲ占領スヘント通報シタカ支那側ハ之ノ砲撃モ事實無根ナリト否定シタノデアル

二月三日以來戰時狀態ハ繼續シテ關北及吳淞方面ハ大砲ノ音ト飛行機

朝鮮總督府

ノ爆撃カ空ヲ轟カン日本軍ハ攻勢ニ出テ吳淞砲台ヲ占領センモノト盛
ニ他撃ヲ加ヘ支那兵ヲ擊退シタ
停戦協定不履行ニ付一言シテ直クカ事實停戦ハ完全ニ實行サレナカ
タ而シテ外國監視員カ一人モ戦線ニ就イテ居ル諱テモナイカラ何レノ
勳カ協定無視ノ責任者テアルカ判ラナイ或ハ小部隊又ハ煽動擾亂ヲ敢
テスル輩ノ仕業カモシレナイ
更ニ右戦端再開ニ關スル以外ニ共同租界特ニ日本據當區域ニ於テ生シ
ツツアリシ事實ヲ記シテ直ク必要カアル
一月二十八日夜日本軍舉行勳カ開始サレシ當初カラ日本人居留地内ニ
ハ便衣隊ノ來襲盛ニ行ハレ不意ニ家ノ片隅ヨリ或ハ屋上カラ「ピスト
ル」ヲ亂射シ日本警備隊ヲ苦シムルト云フ有様テアリ日本兵ハ其數ニ
於テ不足シ居リ爲ニ上海ニ於ケル豫備兵其他迄モ召集シ勳員シテ居タ

499 0500

朝鮮總督府

ノテアツタ又日本側ハ此ノ便衣隊ヲ掃蕩センカ爲家宅搜索ヲ行ツタカ
之カ實行ニ際シテ多數ノ犠牲者ヲ出シタ
日本海軍ハ虹口方面ヲ完全ニ支配シ道路ニ鐵條網ヲ張り警官ノ武装解
除ヲ行ヒ工部局ノ行動ヲ妨ケ消防隊ノ活動スラ不自由ナラシメタ
警察官ハ其本部トノ聯絡ヲ絶タレ上海工部局ハ其本部タル學校及病院
ヲ明渡スノ止ムナキニ至ツタ 陸戦隊員ノ誰何餘リエ其ノ服ヲ超エ更
ニ豫備兵、暴漢サテハ無名ノ徒輩ニ至ル迄盛ニ暴行ヲ敢テシタノテア
ルカ之ハ暴徒勃發當時抗日團支那人ニヨリ爲サレタ暴行ニ對スル報復
手段テアツタカモシレヌトハ云ヘ兎角非常ナ横暴振リテアツタ
今回ノ暴徒テ多數ノ支那人行衛不明トナリ或ハ殺戮サレタト思ハレル
節モアルノテ二月五日工部局ハ上海領事團ニ對シ日本官憲ニ付テソノ
真相ヲ確シムル豫申請シタ之ニ對シ日本總領事ハ尤モ日本人側ニモ程

500 0501

度ヲ失シタル或ル種ノ行爲カアツタカモシレヌカ之ハ感情ノ激昂シテ
 居ル際テモアリ而カモ無秩序ノ状態ニアツタ時テアルカラ漸時騒動
 穩ニ歸スルニ連レ良好トナツテ來ルテアラウト辯解シテ上暴行ノ嫌疑
 ニヨリ逮捕セラレタ者ハ全部工部局警察ニ引渡スコトニスル旨ヲ傳ヘタ
 スク引渡シハ終了シタカ未タ歸還シナイ支那人ノ數相當多カツタ工部
 局警察ノ調ヘニヨル未歸還者ハ三百名ノ多キニ達シテ居ル
 使衣隊ノ活動ハ漸時少クナツタカ日本官憲ノ取締リハ未タ嚴重テアル
 日本官憲ハ日本人ニ依ツテナサレタ暴行ヲ憂慮シテ日本人不良分子ヲ
 本國ニ送還シタ
 本委員會ハ暫時新情報ヲ得ル迄ハ報告書ヲ發送シナイテアラウ

委員連名 目 著

501 0502

第三報告 上海一九三二年二月二十日

中立國外交團ノ斡旋ニヨリ日支兩國軍隊撤去案ヲ議題トスル會合ヲ開
 イテハ如何ト云フ提言ニ對シ兩國司令官ヨリ同意ノ旨ヲ傳ヘテ來タ
 二月十八日朝日支兩軍共參謀長ヲ以テ各々代表トナシ出席セシメタ
 此ノ會合ニ日本側ハ目巳ノ條件ヲ提出シタカ支那側ハ之ヲ受諾セヌ遂
 ニ二時間ノ長キニ亘ル會合モ何等好結果ヲ收メ得ヌ故會シタカ日本側
 ハ午後九時迄ニ文書ヲ以テ日本ノ條件ヲ提出スルニヨリ支那側ハ成ル
 ヘク速カニ之ニ回答ヲ與ヘラレヨト傳ヘタ
 午後九時頃日本側ヨリ其ノ條件ヲ記述シタル文書カ市長並ニ支那十九
 路軍司令官ニ提出サレタカ其ノ條件ハ大要左ノ通りテアツタ
 一 支那軍ハ二月二十日午前七時迄ニ第一線ノ撤退ヲ完了シ二月二十日

502 0503

午後五時迄ニ黃浦江左岸共同租界西北端曹家渡鐵橋家橋鎮及蒲淞鎮ヲ連ネル線(共同租界西端ヨリ概ネ蘇州河ニ沿フテ東方ノ線)以北租界ノ北部境界線以北並ニ黃浦江岸爛泥渡及張家樓鎮ヲ連ヌル線以北ニシテ租界ノ境界線ヨリ二十杆ノ地域(獅子林砲台ヲ含ム)ノ外ニ撤退ヲ完了シ右地域内ニ於ケル砲台其他ノ軍事施設ヲ撤去スルト共ニ新ニ之ヲ施設セサルコト

ニ日本軍隊ハ射擊若ハ追撃ヲナスコトナク只飛行機ヲ以テ撤退監視ヲナス 支那軍隊撤退後日本軍ハ虹口ニ境ヌル租界道路及虹口公園ニ軍隊ヲ駐屯セシム

支那軍第一線明渡後該地ニ日本軍護衛ノ下ニ日本ノ國旗ヲ掲ケタル調査隊ヲ派遣ス

支那軍ハ明渡セシ區域以外ノ地ニ於ケル日本人ノ生命財產保護ノ任

503 0504

朝鮮總督府

ニ當ルコト若シ實行セサル時ハ日本軍ハ必要ナル手段ニ訴フヘシ

便衣隊ハ徹底的ニ根絶スルコト

支那軍撤去セシ區域内ニアル外國人ノ保護ニ付テハ別ニ定ムルコト

六抗日運動ニ付テハ支那ハ一月二十八日ノ誓約ヲ嚴守シ更ニ日本外務省ト上海支那官憲トノ間ニ交渉ヲ行ウコト之ノ條項ヲ嚴守セサル場合日本ハ實力ニ訴フヘシ

翌十九日市長及支那軍司令官ヨリ日本軍司令官ニ回答文カ手交サレタ市長ヨリノ回答文ニハ上海方面ノ事態ハ日本軍ノ願成セルモノニシテ日本ニ於テ一切ノ責任ヲ負フヘキモノナルコト累次申入レノ通ナリ又今般總領事申越ノ各項ハ當地中國軍隊ニ傳達致シ難シ右ハ何レモ日支兩國關係ニ影響スル問題ニシテ兩國外交代表間ニ於テ處理スヘキモノナルニ付既ニ中央政府ニ傳達シ置キタレハ外交部ヨリ日本公使ニ何分

504 0505

朝鮮總督府

ノ回答アルヘシトアリ更ニ「本市長ハ日本軍カ引續キ挑發的態度ヲ
執リ有ユル破壞ヲ決行シ民衆ノ憤慨日ニ甚シキ今日ノ如キ情勢ニ於テ
ハ所謂抗日運動ノ消滅ノ如キハ望ミ難ク其ノ責任亦日本ニ在リ」ト聲
明シタ

支那軍司令官ヨリハ十九路軍ハ國家ノ軍隊ナレハ其ノ行動ハ國民政府
ノ指揮ヲ俟ツモノナルニ付凡テ南京政府ト交渉アリ度キ旨ノ回答アリ
右以外如何ナル回答ヲ支那政府カナシタルヤ計リ知ラレナイ

十九日ヨリ二十日ニ至リ日本軍ハ其ノ第一線ニ付飛行機ヲ以テ偵察セ
シメタル處支那軍ハ依然トシテ變化ナキニヨリ日本軍ハ二十日午前七
時三十分ヲ期シ江西及吳淞方面ニ行動ヲ開始シタ

各 國 委 員 署 名

505 0506

第三報告ニ對スル附錄

上海一九三二年二月二十四日

日本側要求ニ關シ如何ナル回答アリシヤノ照會ニ對シ上海市廳ヨリ上
海調査委員ニ左ノ如キ通報アリタリ

「九月十八日奉天ニ於ケル日本軍隊ノ攻撃開始セラレテ以來日本軍ハ
前進又前進支那ノ東北部ノ主要地ヲ占領ス而シテ一月二十八日ニ至
リ日本軍ハ方向轉換シ其ノ主力ヲ上海ニ向ケ關北地方ニ來襲シ引續
二十日間關北及吳淞地方ニ激烈ナル熾烈ヲ加ヘ支那軍ハ自衛上止ム
ナク之ニ抵抗シ前進ヲ防キシカ之ニ満足シ得サル日本ハ更ニ市長及
十九路軍司令官ニ向ツテ到底受諾スルコト不可能ナル要求ヲ提出シ
タ」ト 更ニ續ケテ曰ク「若シ日本軍カ軍事行動ヲ再開セハ支那軍
ハ全力ヲ舉ケテ之ニ對抗スルノミ凡テノ責任ハ日本軍ニアリ」

506 0507

1175

二月二十日戦闘行爲再々開始サレ三月一日迄吳淞線ヨリ南北ニ至ル一帯ノ地域ヲ繼續的戦闘カ行ハレタ日本軍ハ以前十九路軍ニ要求シタ如ク今モ尙支那軍隊ノ撤去ヲ要求シテ居ルノデアル

戦闘ハ激甚ニシテ戦場附近ニアツタ村落ヤ獨立家屋ハ殆ント破壊セラレテ居ル

二月二十三日日本飛行機ハ虹橋飛行場ヲ粉碎シ概イテ二十六日ニハ杭州飛行場ヲ爆破シタ

二月二十六日日本總領事ハ上海市長ニ對シ通告シテ曰ク

日本軍ノ探知スル所ニ據レハ支那軍ハ鐵道ヨリ多數ノ隊兵ヲ上海ニ輸送集結シツツアリト云フカ若シ此ノ輸送繼續スレハ日本軍ハ目衛上止

第四報告

上海一九三二年三月四日

朝鮮總督府

508

0509

1175

議長 シアノ

朝鮮總督府

507

0508

朝鮮總督府

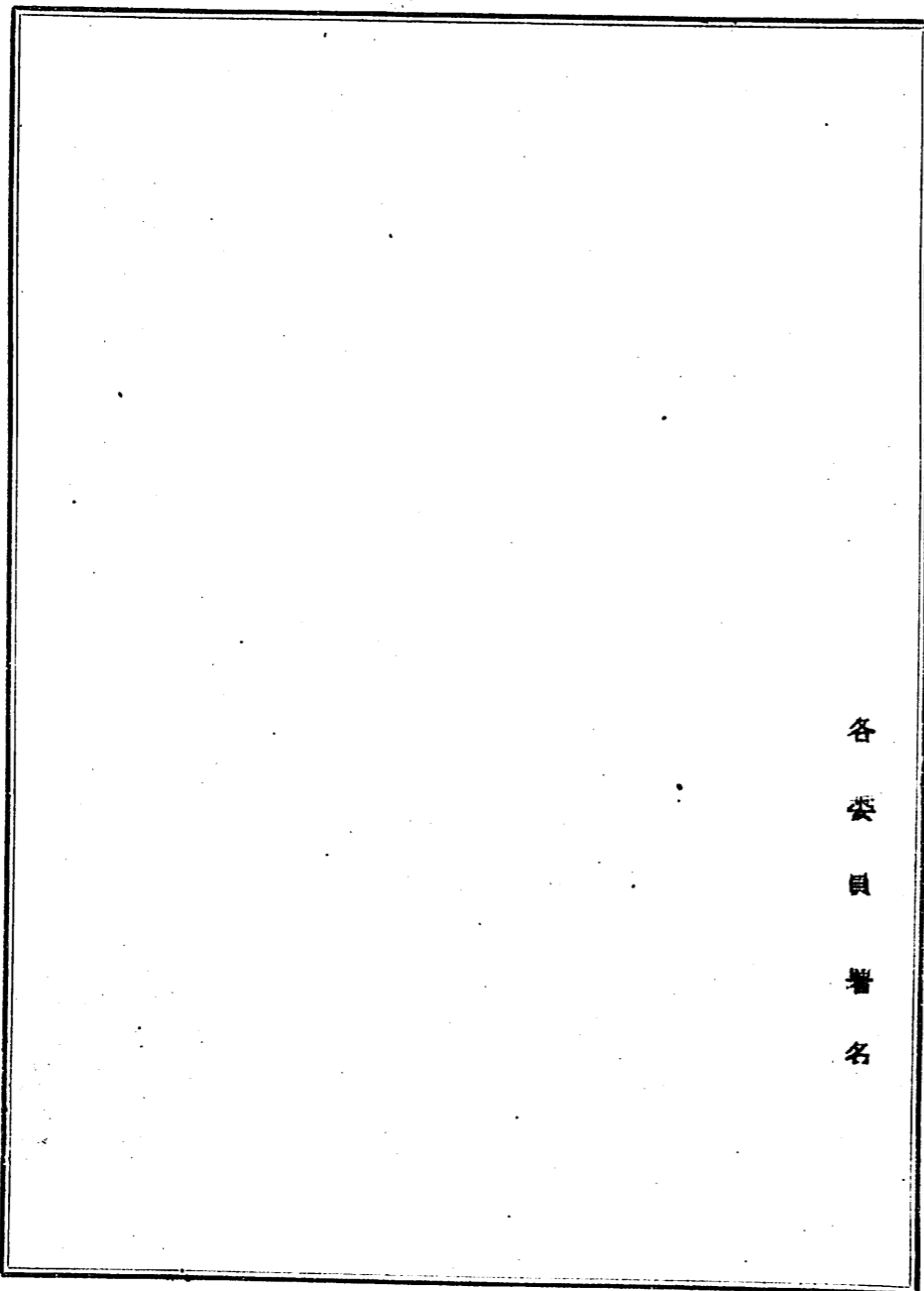
ムナク三月二日後嘉興上海間及蘇州上海間ノ鐵道並ニ軍用列車ヲ擊破
 スヘク支那市民ヲシテ他ニ移住セシムルヲ猶豫ト機會ヲ與フルモノ
 テアルト
 市長ハ直ニ回答ヲ發シテ曰
 日本軍ハ一月二十八日夜以來支那領土ヲ侵シ支那人ヲ殺戮シ凡ユル暴
 行ヲ敢テシ國際公法並ニ條約ヲ無視シ人道ニ反スル行爲ヲ敢テ爲シ來
 タツタ之ニ反シ支那軍ハ只目衛行動ニ出テタルノミテアルカ日本軍カ
 攻勢ニ出テ來レハ支那軍ハ目衛上戰ハサルヲ得ヌ其ノ結果ニ對スル責
 任ハ全部日本ニアリト通告シタノテアル
 二月二十八日及二十九日第十一師團到着、部隊ノ一部ハ吳淞ニ上陸主
 力部隊ハ瀏河ノ附近ニ上陸ヌ一部ハ二月二十九日租界ニ上陸シ日本軍
 ハ之等ハ第九師團及第二十四混成旅團ノ一部ナリト稱シテ居タ三月一

509 0510

朝鮮總督府

日黃浦附近ニ碇泊中ノ日本艦隊旗艦及巡洋艦附近ヲ突然爆發力起キタ
 カ日本側ハ之ヲ支那側カ敷設シタ水雷ノ爆發シタノタト云ツテ居ル
 三月二日早朝日本飛行機ハ二月二十九日ノ要求ヲ徹底セシメンカ爲威
 嚇的ニ上海南京鐵道ノ一部ヲ破壞シタ
 三月一日午后ニハ湖北地方ニ火災起リ甚大ナル損害カアツタ然ルニ之
 ノ責任カ何レノ國ノモノテアルカ不明テアル
 第十一師團カ瀏河ニ上陸シタ爲メ支那軍ハ其側面ヲ突カレ日本ハ江灣
 地方テ攻撃ニ出テ三月一日午后四時頃遂ニ支那軍司令部ハ南島(?)
 龍華ヲ當ム上海領城ヨリ支那軍ノ撤去ヲ命シ日本ハ之ヲ追擊シ三月三
 日正午迄ニ江定、南翔、吳淞方面ヲ完全ニ占領シタ
 本日午後日本軍司令官ハ次ノ聲明ヲ發シタ
 支那軍ハ二月十八日日本ノ要求セシ地點迄退却シ日本國民及共同租

510 0511



各委員署名

朝鮮總督府

512 0513

界ニ對シ危害ヲ加フル虞ナキニ至リタルヲ以テ支那軍ヨリ攻撃セサ
 ル限リ一時現狀維持ノ儘前進セサル稜命令ヲ發スルニ決セリト
 又海軍司令官モ同様ノ聲明ヲナシタ
 之ニ次キ支那軍司令官モ左ノ聲明ヲ發シタノテアル
 「本官ハ支那軍ニ對シ日本軍カ攻撃ニ出テサル限リ日本軍ニ對シ敵
 對行爲ヲ停止スヘシト命令セリ」
 茲ニ注意ヲ要スルコトハ從來ノ停戰調停ハ凡テ失敗ニ終ツタト云フ事
 テアル今回日本軍ハ當分前進ヲ中止シテ居ルカ夜間ハ諸所ニ小戰團カ
 行ハレテ居ル
 日本軍ノ工部局ノ行動阻止ニツイテハ前報告書ニモ述ヘタ通りタカ本
 報告書ノ起草中ト雖猶止マヌ工部局ヨリハ幾回トナク日本當局ニ抗議
 スル所カアツタノテアル

朝鮮總督府

511 0512